

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
食 育	<p>重点目標</p> <p>望ましい食習慣を身に付けた子どもの育成</p> <p>手段</p> <p>1 正しい箸の持ち方ができる子を増やす。</p> <p>2 適量を残さず食べる子を増やし、肥満傾向児童減少と残食0%を目指す。</p> <p>3 健康な歯の子を増やす。</p>	<p>1について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「正しいはしの持ち方で、食事をしていますか。」の問いに対して75%が肯定的な意見、保護者のアンケートによると71%が肯定的な意見、職員のアンケートによると42%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 1月の給食感謝週間の際に、「はしの持ち方指導週間」を実施し、各学年「チェック表」を元にチェックを行ったり、参観日や通信等で保護者への啓発等の取組を行った。鉛筆の持ち方は、1月現在で、平均55%で目標にあと少しである。3月までに達成したい。</p>	3	3	<p>○ 箸の持ち方、鉛筆の握り方は家庭と連携して指導することが大事である。</p> <p>○ 正しい箸の持ち方については、1日のうち3分の2は家庭で食事をしているのに、家庭との連携が必要であるが、保護者のアンケートで「よくわからない」という結果があったが、いっしょに食事をしないのか、保護者自身が正しい箸の持ち方が分からないということなのか。</p> <p>○ 児童と職員のアンケートの数字に開きが大きいのが疑問である。</p> <p>○ 中高生となれば、周りに目が行くようになり、自分自身で気を付けるようになる。あまり神経質にならずに、食事を楽しむことを第一に考えた方がよいのでは。</p>
	<p>2について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「給食は、残さずに食べていますか。」の問いに対して91%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、92%が肯定的な意見であった。</p> <p>○ 保護者のアンケートによると「家庭で、残さずに食べていますか。」の問いに対して83%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 肥満傾向の児童は19.4%であった。給食の残食は2月現在で1.8%である。本校の規模を考えるとほとんど残食は出していない状況と言える。</p>	<p>○ 給食の残食がほとんどないようで、大変よい状況である。</p> <p>○ 児童によって食べる量や好みの差があるので、全員の児童が同じ量を食べるのは無理があるかもしれない。個々の児童を考えて、工夫して行ってほしい。</p> <p>○ 学校の給食は、栄養バランスを考えたすばらしい献立だということを意識させて行ってほしい。</p>			
	<p>3について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「朝・昼・晩と毎日歯みがきをしていますか。」の問いに対して88%が肯定的な意見であり、保護者のアンケートでは、83%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 小林小学校の1月現段階のむし歯の治療率は64.5%である。各学級における保健指導や保健便り等での啓発、医療券の配付等も継続的に行っているが、目標値には達していない。保護者への啓発の仕方等も今後は更に工夫していく必要がある。</p>	<p>○ 健康な歯は、健康な生活を送る上で、また、これから成長していく子ども達にとって、とても大切である。家での歯みがきやむし歯の治療については、家庭の事情や親の考え方が影響するので、家庭との連携を図ること大切になってくる。</p> <p>○ 歯みがきはよくやっているようだが、治療率が低い。これについては、「2」の肥満傾向児童と同じで、家庭の努力が必要ではないだろうか。</p>			

次年度の方向性についての校長所見	<p>1 本年度の取組について</p> <p>学校経営ビジョンに「知育」、「徳育」、「体育」、「食育」に係る4つの重点目標と12の目標達成のための手段を設定し、指導の重点化を図りながら、取組を進めてきた。</p> <p>成果としては、「わかる・できる」を実感する「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた指導の工夫」の研究が今年で2年目となり、焦点化やスモールステップ化、視覚化等のユニバーサルデザインの視点を取り入れた日々の授業改善の成果が徐々に見られるようになっていく。また、「いじめ・不登校」や「特別支援教育」への問題対応も組織的な早期の対応ができており、問題が長期化したり、重大化するような事案はほとんどなかった。さらに、給食の残食も1%台を維持しており、栄養教諭を中心とした食育指導の成果だと言える。</p> <p>2 次年度への改善に向けて</p> <p>「知育」については、まずは、児童一人一人が「わかる・できる」を実感できる授業に更に磨きをかけていく。そのためには、職員一人一人の授業力向上のための研修を充実させるとともに、児童一人一人に応じた個別指導を工夫・改善していく。また、2020年度の新学習指導要領の全面実施に向けた基盤づくりも全職員で進めていく。</p> <p>「徳育」については、児童一人一人の心に寄り添った指導の充実を目指し、児童の実態を把握しながら全職員が共通理解、共通実践するとともに、中学校との連携を図りながら、小中一貫した取組ができるようにする。</p> <p>「体育」については、本年度作成した体力向上プランを次年度当初に共通理解し、体育の時間の指導方法の工夫を図ったり、日常の体力向上に向けた取組の充実を図ったりしながら、確実に共通実践する。</p> <p>「食育」については、箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導等を給食の時間を中心としながら、栄養教諭と学級担任が連携して指導を行うとともに、家庭と連携した取組を更に充実させていく。</p>
------------------	--